

## 茅ヶ崎海岸における津波災害

いつか世間にひろまった  
一相模湾岸の津波は恐るるに足りずー  
という俗説

## 茅ヶ崎付近を襲った津波

- 1241年5月の相模湾の地震(マグニチュード7.0)では、由比ヶ浜の八幡宮の拝殿が流出
- 1498年9月の地震は、遠く遠州灘(マグニチュード8.6)にもかかわらず、津波は鎌倉大仏殿に達し、流死200名
- 元禄地震(1703年、房総近海、マグニチュード8.2)では、由比ヶ浜二の鳥居まで浸水、死亡600名。藤沢、平塚でも大波上がり、片瀬では住家の流失をみたという。津波の高さは鎌倉で8メートル、片瀬6メートル、藤沢は4メートル、大島で10mであった

(「大日本地震史料」)

2006.05.17

茅ヶ崎と津波

2

## 134号線を超えた関東大地震の津波

- 大正関東地震で発生した津波では、茅ヶ崎ゴルフ場のクラブハウス付近まで漁船が押し上げられた(原田茅ヶ崎漁業協働組合長)
- クラブハウスは、海岸から約200m。直近の134号線の標高は約6.8m(現在の地形図から)
- 大正関東地震の津波高さは、平塚で6m、片瀬で7m、由比ヶ浜で9m(「海から生まれた神奈川」神奈川県生命の星・地球博物館、横須賀市自然・人文博物館編)

2006.05.17

茅ヶ崎と津波

3

## 大正関東地震の津波体験談

平塚市高浜台の金子長太さん(明治34生まれ)によると

- 「浜では、波が急に200mくらい沖に引いてしまったあと、(中略)いったん、沖に引いた波は津波となって押し寄せた。相模川の川幅は今よりずっと広がったが、それでも四ノ宮あたりまで波が逆上がったと言われている。舟だまりに止めてあった舟は、みんな栓が抜いてあったが、全部流されたり、沈んだりしてしまった」

(播磨晃一編「西さがみ地震」西さがみ庶民史録の会発行)

2006.05.17

茅ヶ崎と津波

4

## ある地形学者のコメント

- 「都市開発の優先したこの半世紀の南関東の環境変化は、昔とは雲泥の違である。湘南海岸では、高さ数メートルの国道が通るので、津波はこれで防げるから安心と述べたある行政側の人の発言を知って、私はこれはあまりに無知、ご都合主義、不謹慎であり、沿岸住民を愚弄するもの以外のなにものでもないと感じた」

金子史郎(理学博士)著「世界災害物語3ー自然のカタストロフィー」星雲社、1983年12月発行、PP274ー276.

2006.05.17

茅ヶ崎と津波

5

## 陸地で猛威をふるう津波

- 平坦な地形であれば陸地の奥深く数km以上浸水させる
- 水の勢いで家屋などが倒され、柱や壁などの大きな浮遊物の衝突が被害を拡大
- 最後に引き波が海に向かって流れ込む
- 川を遡上するため、内陸部から先に浸水することもある

2006.05.17

茅ヶ崎と津波

6

## 津波の規模と被害

(今村・飯田スケールの一部)

津波の規模階級	津波の高さ(最高)	被害の程度
-1	50cm以下	無被害
0	1m前後	漁船, 水産施設に被害がでる
1	2m前後	海岸の家屋を損傷し, 船艇をさらう
2	4~6m	家屋や人命の損失

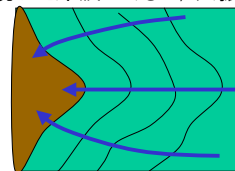
2006.05.17

茅ヶ崎と津波

7

## 駆け上がる津波

- 水深が深いところで, 早く(ジェット機なみ), 浅いところで遅くなる
- 津波は浅いほうに向かって曲がる
- 岬の先端部にエネルギーが集中しやすい
- 湾内に連続した津波がくると, 共振する



2006.05.17

茅ヶ崎と津波

8

## 津波から避難する

- まっさきに高台に避難する
- 車による避難の原則禁止
- 近くの建物のできるだけ高いところ上がる
- 岩場, 堤防などの硬いものから離れる(たたきつけられるのを防ぐ)
- 海岸に面するビルから2列目,3列目の建物に避難する

※国土交通省「防災白書」「津波から身を守る心得」などによる

2006.05.17

茅ヶ崎と津波

9